



## 【噴火警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### 雌阿寒岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

ポンマチネシリ火口の噴煙は火口縁上100～200mで推移し、噴火前と比べ依然やや多い状態であるが、噴出の勢いは次第に弱まってきている。

火山性地震は一日あたり数回～20回とやや少ない状態で経過した。また、火山性微動は18日にごく小規模なものが1回発生した。

GPSによる地殻変動観測では、2008年10月初め頃よりやや広域の地殻変動が認められるが、浅部の膨張は認められない。

雌阿寒岳では今後ごく小さな噴火が発生する可能性があり、ポンマチネシリ火口から500m程度の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

### 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

15日23時48分頃にごく小規模な噴火が発生した。噴煙高度は火口縁上200mであった。噴火の発生は、2月17日のごく小規模な噴火以来である。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。15日01時42分に、山頂直下のやや西よりでマグニチュード<sup>2)</sup>2.0のやや大きな火山性地震が発生したが、この地震に伴ってその他の観測データに特段の変化はみられなかった。

19日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり2,300～3,600トン(前回3月12日、1,400～2,400トン)と多い状態が続いている。

傾斜計では火山活動による特段の変化は観測されていない。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃から深部へのマグマ貫入を示すわずかな伸びの傾向がみられている。

浅間山では、居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から4kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

- 2) マグニチュード(M)は地震の規模を示す。資料中のマグニチュードは暫定値で、後日変更することがある。

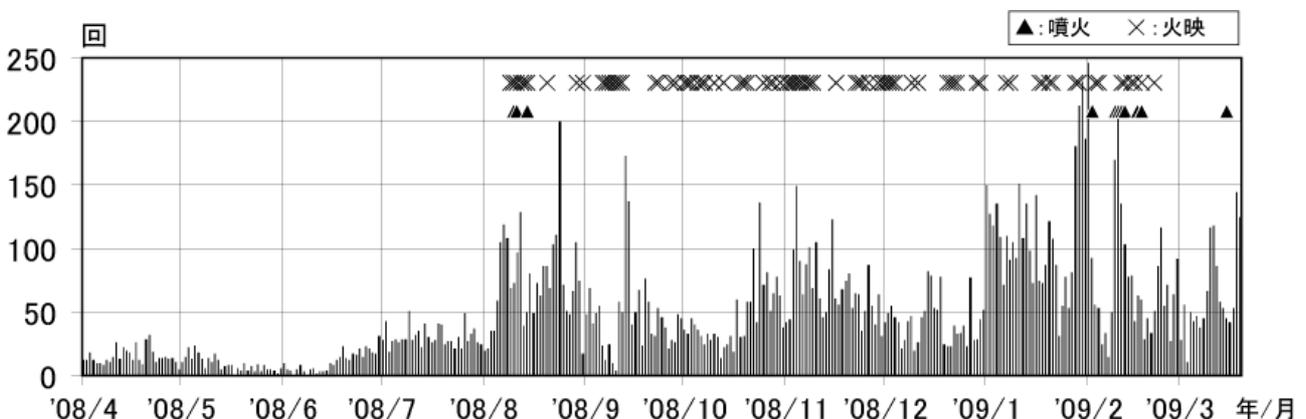


図2 浅間山 火山性地震の日別回数 (2008年4月1日～2009年3月19日)

### 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

16日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,100～1,600トン(前回3月5日、1,000～1,700トン)と依然として多い状態が続いている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流にも注意が必要である。

### **硫黄島** いおうとう 【火口周辺警戒(火口周辺危険)】

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

### **福徳岡ノ場** ふくとくおか の ば 【噴火警戒(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警戒】

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

### **桜島** さくらじま 【火口周辺警戒(噴火警戒レベル3、入山規制)】

昭和火口では、14日に爆発的噴火が3回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>1)</sup>が5合目(昭和火口より500～800m)まで達した。南岳山頂火口では、17日にごく小規模な噴火が発生した。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いているが、桜島直下にマグマが新たに移動したことを示す地殻変動は観測されていない。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

桜島では、昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くまでの範囲では、噴火に伴う大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>(火山れき<sup>3)</sup>)に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

### **薩摩硫黄島** さつまいおうじま 【火口周辺警戒(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

火山性地震はやや多い状態が続いている。

硫黄岳山頂火口の噴煙の状況は、遠望カメラの障害のため確認できなかった。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。

### **口永良部島** くちのえらぶじま 【火口周辺警戒(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】 18日に噴火警戒レベル3(入山規制)から引下げ

GPSによる地殻変動観測では、2008年9月以降続いていた新岳火口浅部のわずかな膨張を示す変化が2009年2月以降鈍化し、2008年9月から12月頃にかけて増加した二酸化硫黄の放出量も、2009年1月以降やや減少している。

火山性地震および火山性微動は少ない状態で推移している。

これらのことから、18日15時00分に噴火警戒レベルを3から2に引き下げた。

島内に設置した遠望カメラでは、白色噴煙が時々観測され、高さは火口縁上50～100mで推移した。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの

範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

御岳火口では15日および16日に小規模な噴火が発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

### 【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4（避難準備）	火口周辺警報	入山危険
レベル3（入山規制）	噴火予報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）		平常
レベル1（平常）		

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。